

防耐火構造部材評価 試験体の材料分析 メニュー

ハウスプラス住宅保証株式会社

材料の分類	材料の例※1	推奨される分析 (一般論)	分析方法	分析方法の概要	試験体	分析費用
有機系材料で、難燃材を混入することにより、燃焼性状を著しく改変させるおそれのある材料	有機系断熱材など	酸素指数の測定、強熱減量の測定等	①酸素指数の測定	材料が燃焼を持続するのに必要な最低酸素濃度(容量%)を酸素指数と定義し、燃焼時間が 180 秒以上継続するか、または、接炎後の燃焼長さが 50mm 以上燃え続けるのに必要な最低の酸素濃度。	1 体 (幅 10 mm×長さ 150 mm程度)	82,000 円
			②強熱減量の測定	500℃に強熱したときの減少質量を、元の質量に対する百分率で表したものの。	2 体 (均質部分より微量のサンプルを抽出)	12,500 円
有機物を混入している無機系材料で、有機物を無機物に置き換えることにより、燃焼性状を著しく改変させるおそれのある材料	セメント板、窯業系サイディング材など	完全燃焼時の発熱量の測定、強熱減量の測定等	③熱重量分析(TG/DTA)	熱重量変化(TG)は、試料の温度を一定のプログラムに従って変化させながら、試料の質量変化連続的に測定する方法。示差熱分析(DTA)は、試料を加熱または冷却した際に起こる物理変化や化学変化に伴って試料内で発生する熱変化を基準物質との温度差として検出する手法。	2 体 (均質部分より微量のサンプルを抽出)	62,500 円
			④ICP 分析 (リン対象) (塩素・臭素対象)	高周波誘導結合プラズマ(ICP)を光源とする発光分光分析法であり、試料中の無機元素を分析するもの。	2 体 (均質部分より微量のサンプルを抽出)	リン対象 36,500 円 塩素・臭素対象 71,000 円
その他、材料組成を変えることにより、燃焼性状を著しく改変させるおそれのある材料	その他	強熱減量の測定、組成の変化による影響を適確にとらえることのできる分析	②強熱減量の測定	②と同じ	②と同じ	②と同じ

※1：JIS 製品、自社の製造時確認等で有機質量含有率が証明できる材料等は本分析の対象外です。